

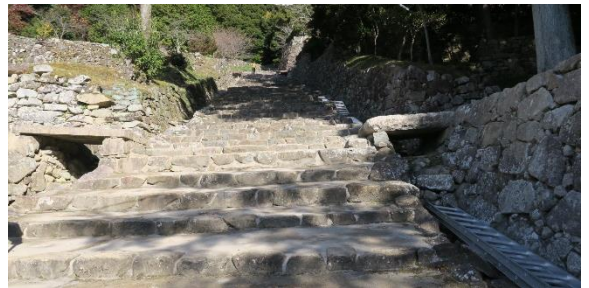
## 11月24日 安土城跡ハイキング

安土城跡前のボランティアガイドさんの案内で、入口大手道の石段を登りました。

この場所は元々信長の菩提寺として摠見寺が建てられましたが、江戸時代末期火災で焼失し仮本堂が建てられました。この時大手道の一部を埋め立てて石垣を築いたので大手道は石垣を迂回していました。その後この石垣の解体を進めたところ幅9m、長さ180mの大手道が現れました。410段の石段は下から見上げるとなかなかの迫力があり、また段差もかなりあって途中一服して登るほどでした。両側には武家屋敷が並んでいましたが、家来衆は通れず特別な賓客を迎えるための道でした。城への往復は西方の摠見寺の石段を使っていたようです。石段の両側には武家屋敷跡が残っています。

屋敷の住人は秀吉、家康、利家などが挙げられていますが、確実なのは信長の祐筆（秘書）であった武井夕庵の屋敷で、信長の相談相手としても影響力が大であったといわれている人です。

そのまま石垣に沿って2回曲がり黒金門跡を通り、本丸跡から石垣に囲まれた天主跡に着きました。ここに5層7階の天主があり100個近い礎石が残っていました。この天主の石垣には火災時に崩れ落ちた木材の熱で細かくひび割れた跡がありました。



天主跡の石垣からは西の湖、大中の干拓地の向こうに琵琶湖を見下ろすことが出来ました。大湖の干拓が昭和22年に始まるまではこの安土の山の下まで水が来ており、古老の話ではよく泳いだとのことで、当時の安土城の回りが湖水に囲まれた様子がよくわかりました。また西方に船着き場があったことも納得出来ました。

ここから戻り山道を摠見寺の三重塔へ行きました。瓦など修理中だそうです。室町時代の作で石部の長寿寺から信長が移築し、元の寺には礎石のみが残っています。近くで見ると木組みの細工が見事でした。2時間30分ほどのガイドでしたが、本能寺の変でわずか3年しか持たなかった城の盛衰が戦国時代を象徴しているようでした。

この後安土考古博物館へ移動しました。

横の芝生で暖かい日差しの下昼食をとり、安土考古博物館を見学しました。展示には安土城と信長の資料が多くあり、城跡歩きと見学で城の内容がよくわかり楽しいハイキングでした。

